

2022年7月12日

学修行動・成果アンケートについて

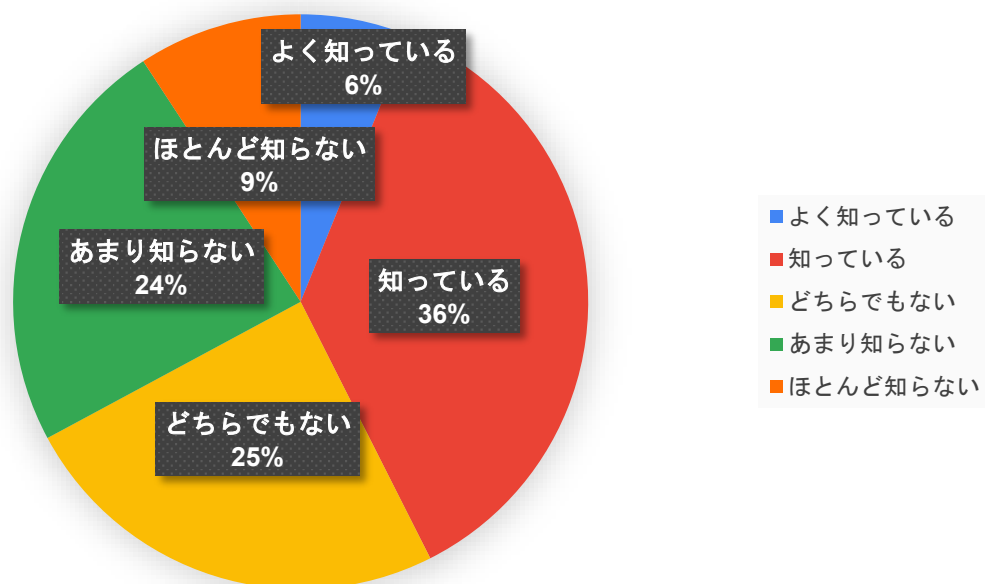
学長室
教務委員会

大学での学びが重視される中で、高千穂大学では、学長室・教務委員会の共同事業として新生を対象とした学修行動・学修成果に関するアンケート調査を実施いたしました。この調査は、今後継続的に実施されることで、高千穂大学での学修がどのように進んでいるのかを全体的な観点から明らかにするものとなっています。

2022年度は新生が入学し、授業にも慣れてきた5月18日から6月17日にかけて実施いたしました。Googleフォームを用いたオンラインで調査を行い、423名からの回答を得ました。2022年度は530名の入学者がおりますので、約79.8%の回収率となっております。

本アンケートは大学の学風の指針、目標についての理解、学修行動（出席状況、取り組み）、教養・専門知識、スタディスキル、社会人基礎力について問うております。それぞれの結果については以下の通りです。

1. 高千穂大学の「学風の指針」「学風の目標」について

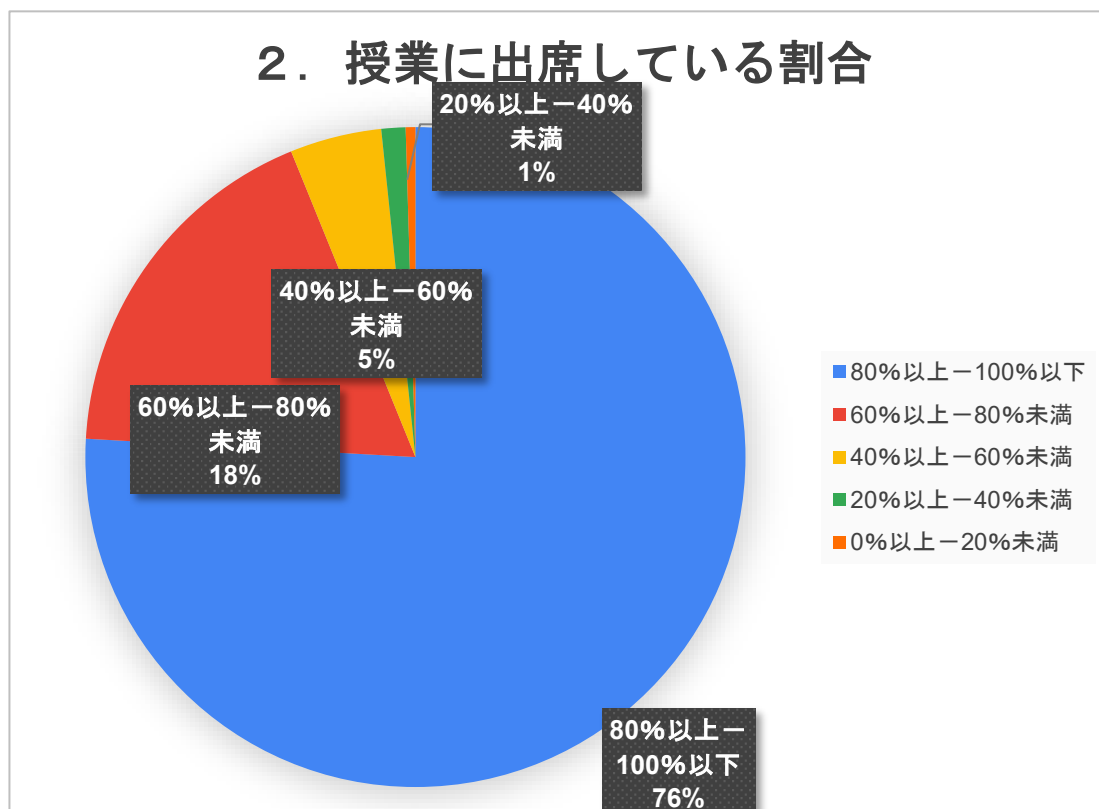


コメント

「よく知っている」と「知っている」で約42%となっている。本学では推薦入試などで3つ

のポリシーのうち、アドミッションポリシーを問うようにしていることもあり、一定数の学生が高千穂大学の「学風の指針」「学風の目標」について知っていると思われる。

一方で、入学したばかりということもあり、また15週の確保のため、すぐに授業を開始していることもあり、高千穂大学の学風の指針、学風の目標を知らない学生もいるため、今後のガイダンス等において周知することが求められる。

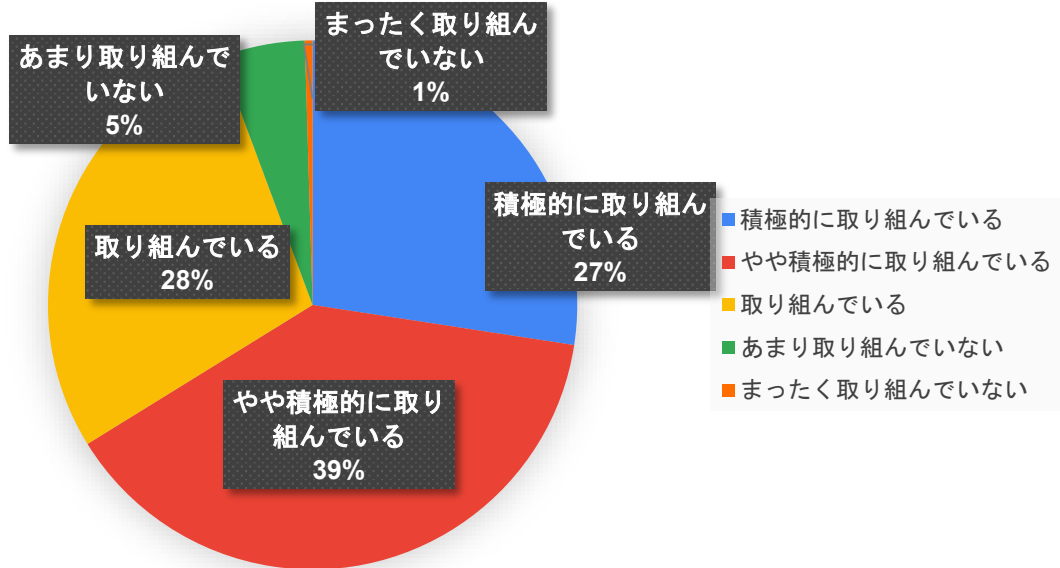


コメント

4分の3以上の学生がほぼ出席していると回答している。1年生であることと、対面授業等を通じて多くの学生が学生間の交流が進み、授業参加の意欲を高めていると思われる。

一方で入学初期の段階にもかかわらず、約1%の学生がほとんど出席していないと回答している。入学者の学修状況について早い段階での確認が必要となると思われる。

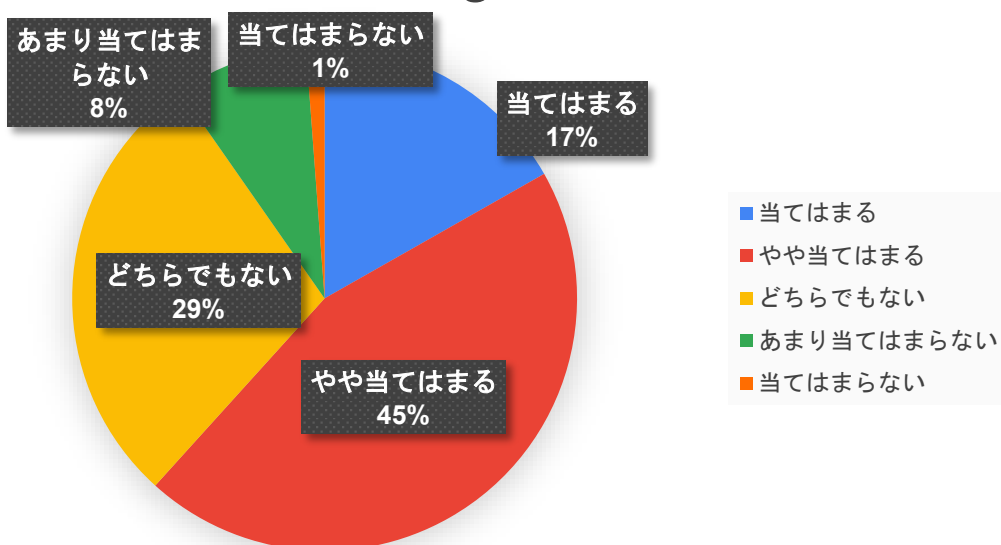
3. 授業への取り組み



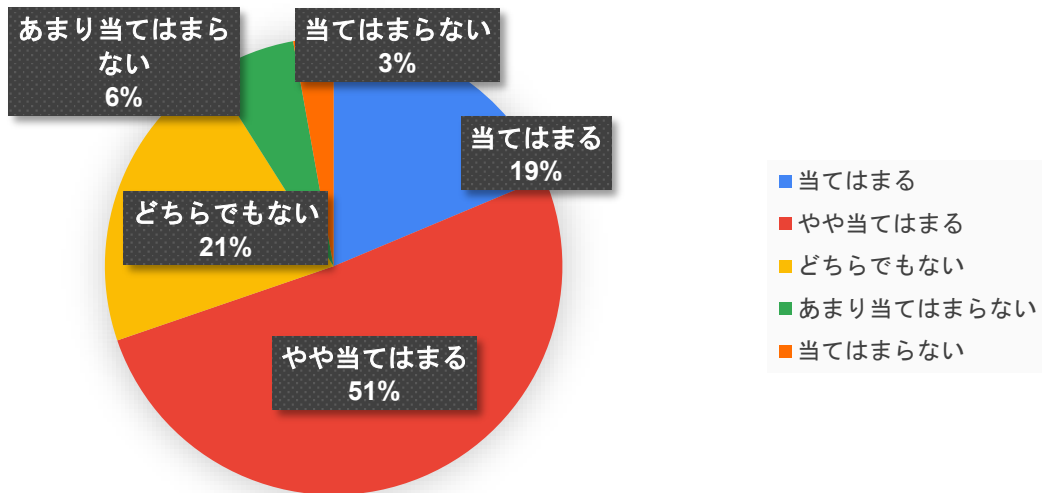
コメント

授業に対しても積極的に取り組んでいる学生が約66%と3分の2の学生からの熱心な学修行動がみられる。ただし、その取り組みは出席と比べると低くなるので、教員側の学生への働きかけと同時に学生の関与を高めるアクティブラーニングを引き続き、継続していくことが求められる。

4. 幅広い知識や教養を身につけている

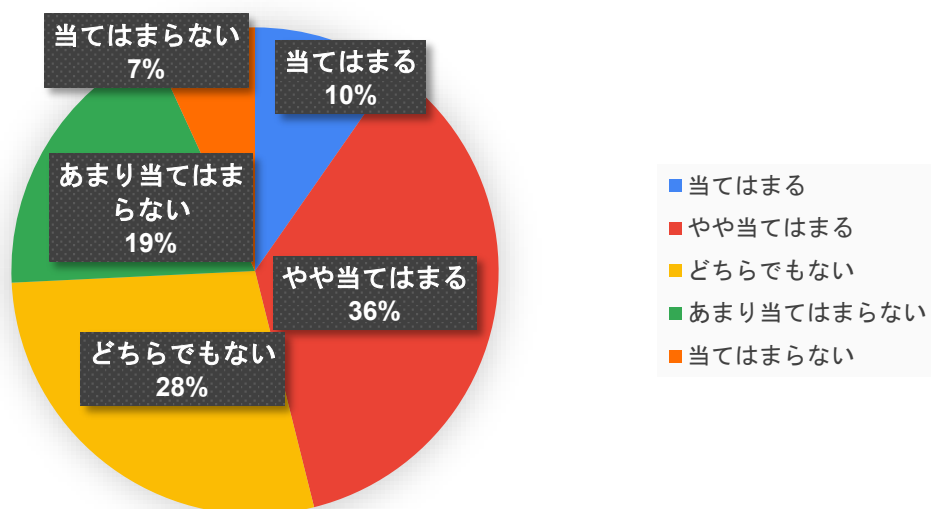


5. 学部・学科で学ぶ専門知識を身につけている

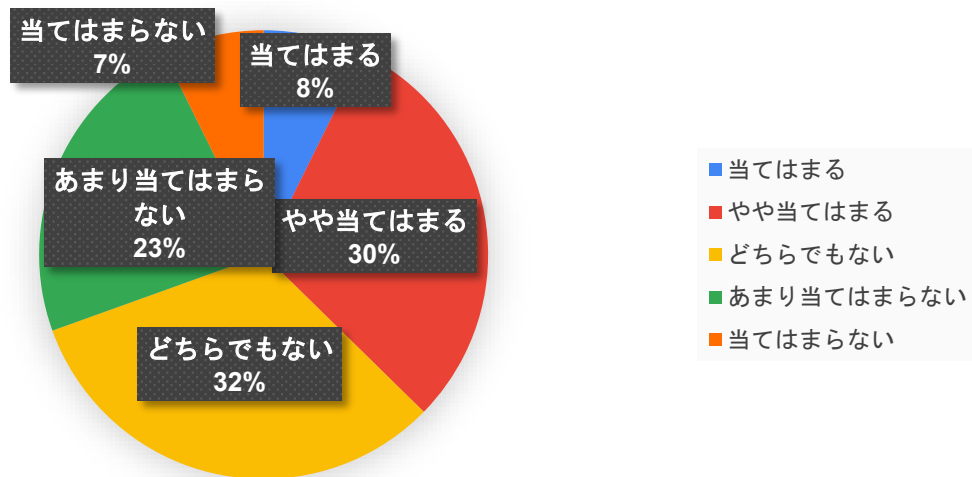


コメント 高千穂大学ではカリキュラムポリシーから、一年次より専門科目を履修できる体制をとっている。人類の知の蓄積である人文領域、社会領域、自然領域からの学びで得られる教養知識については一定程度の高さが見られる。そして専門知識については、「当てはまる」、「やや当てはまる」で約70%という回答があった。

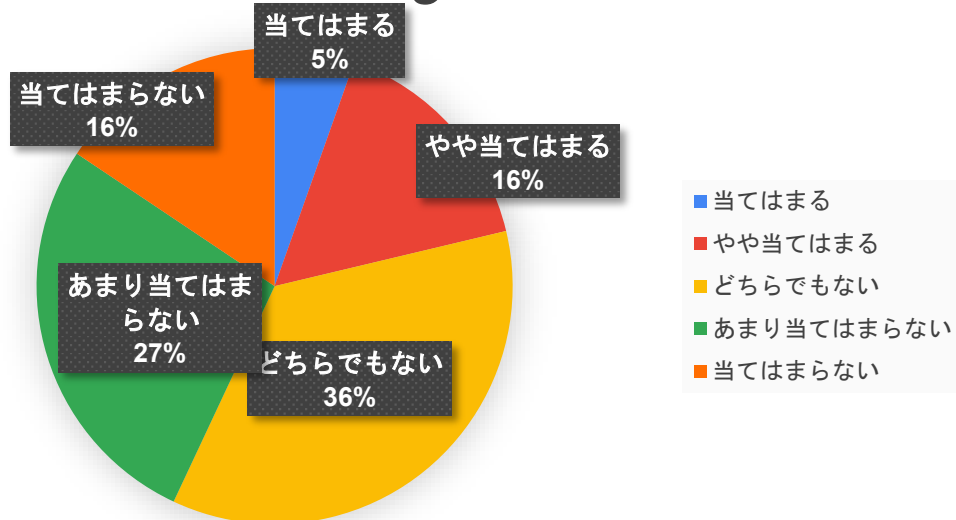
6. レポートの作成で必要となる情報収集技能を持っている



7. レポート作成に必要な文章作成技能を有している



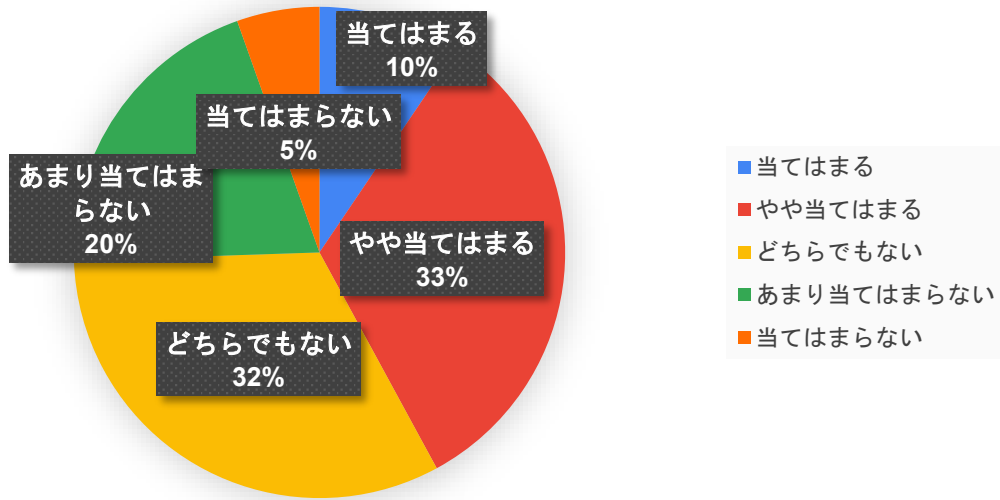
8. プレゼンテーション能力を有している



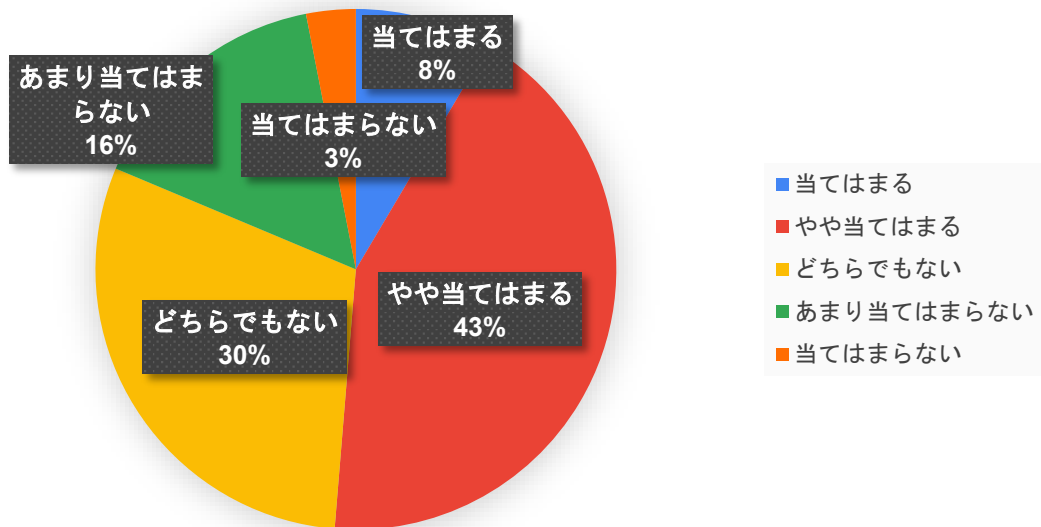
コメント

実際の文章作成やプレゼンテーションについては、あまり高い状態にはないことがこれらのグラフから読み取ることができる。これらの能力は大学での学び（専門・教養教育、ゼミナール教育）を通じて向上していくものと考えられる。

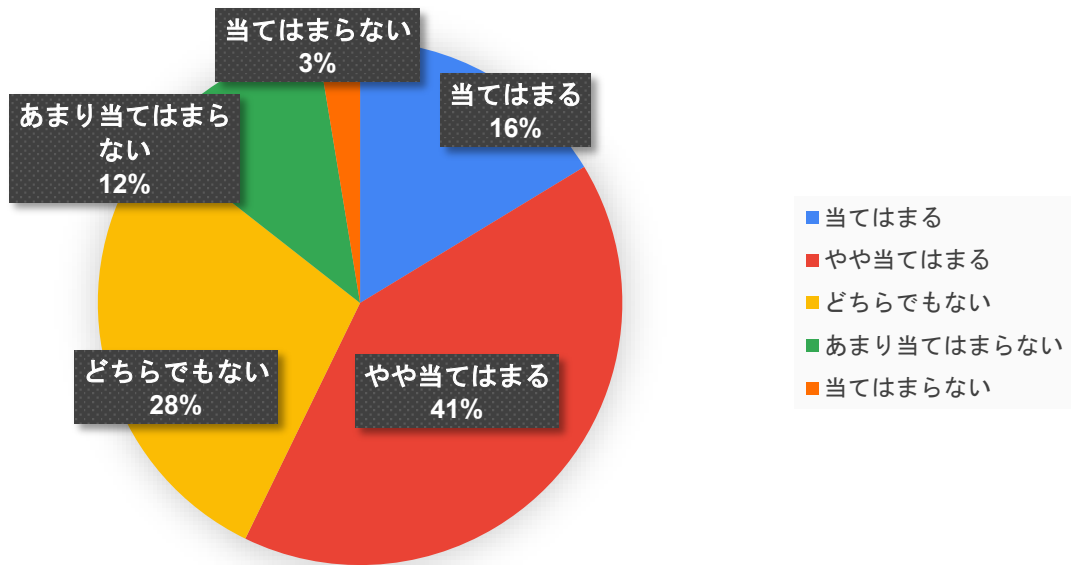
9. 前に踏み出す力が身についている



10. 考え抜く力が身に付いている



1 1. チームで働く力が身についている



コメント

社会人基礎力の3要素について質問したものである。「当てはまる」「やや当てはまる」が半数程度の高さである。大学4年間を通じ高めていく必要がある項目であり、これらに対しては学生生活の中で身につくものと思われる。

以上